

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道439号 <small>おおうえ</small> 大植バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	高知県						
起終点	自：高知県吾川郡仁淀川町織合 至：高知県吾川郡仁淀川町太郎田	延長	3.0km								
事業概要 ：一般国道439号は、徳島県徳島市から高知県四万十市へ至る延長約355kmの幹線道路であり、高知県の中山間部の住民の日常生活を支える「命の道」である。大植バイパスの現道は大型車の通行が困難な幅員狭小区間、線形不良箇所が続いており、大雨等の異常気象時の事前通行規制区間となっている。こうした現道状況の改善を目的とした延長3.0kmの事業である。											
H元年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H元年度用地着手	H元年度工事着手								
全体事業費	63億円	事業進捗率	76%	供用済延長	1.2km						
計画交通量	1,300台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/ (事業全体)		総便益 (残事業)/ (事業全体)							
	0.4	13 / 72億円 (事業費：12 / 71億円 維持管理費：0.28/0.68億円)		17 / 26億円 (走行時間短縮便益：15 / 23億円 走行経費減少便益：1.6/ 2.6億円 交通事故減少便益：0.10/0.28億円)							
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施										
	交通量変動	B/C=1.4 (交通量+10%)	B/C=1.2 (交通量-10%)								
	事業費変動	B/C=1.2 (事業費+10%)	B/C=1.5 (事業費-10%)								
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間+10%)	B/C=1.4 (事業期間-10%)								
事業の効果等											
・国土・地域ネットワークの構築（現道の普通車すれ違い困難区間を解消する）				他12項目に該当							
・災害への備え（現道の事前通行規制区間を解消する）											
関係する地方公共団体等の意見											
・地域の生活を支え、高知県山間部の住民にとって「命の道」となる国道439号の整備促進を求め、9市町で構成された高知県国道439号整備促進期成同盟会より要望を受けている。											
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等											
・平成17年8月、市町村合併により仁淀川町が発足。（池川町、吾川村、仁淀村）											
事業の進捗状況、残事業の内容等											
・現在までに1.2kmを供用している。											
・残事業はトンネルや橋梁を含む未供用区間の整備である。											
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等											
・トンネル等の建設費が大きい構造物があり、近年の公共事業費の縮減により事業期間が長期化している。今後は、コスト縮減を図りながら残区間の早期完成を目指す。											
施設の構造や工法の変更等											
・トンネル幅員縮小の計画変更によりコスト縮減を図っている。											
対応方針 ：見直し継続											
対応方針決定の理由											
・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらない。											
事業概要図											
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>凡</td> <td>例</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>		凡	例		再評価箇所		うち供用中				
凡	例										
	再評価箇所										
	うち供用中										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。